

製本のススメ

Vol. 59

まったくもって不景気という言葉で一年が過ぎましたね。よく頑張ったなあと自分で自分を褒めてあげたい♪みんな、同じ想いでしょう。

今回は**横書きと縦書き**の話し

日常の中で何気なく文字を読み書きしている事と思います。また自分でも資料を作ったりしていますね。そこで気にかけて欲しいのは、表題と中身の文字組み関係です。**新聞や小説等は縦書きに組まれています**、当然ですが右から左へと読み進めていくはずで、左側のページを読み終わったら、そのページは右側へめくられて次の文章になりますね、これを【**右開き**】と呼びます。逆に横書きの文章は、右側のページを左へめくりますので【**左開き**】と呼びます。**アニメコミックでも、殆どが右開きです。それはセリフが縦書きだからです。**

さて**中身が縦書きの場合には、タイトルも縦書きが基本です**(横書きの場合は**タイトルも横書き**)しかし最近では横書きに慣れているせいか、中身が横書きなのに**タイトルだけ縦書き**(或いは、その逆)という印刷が出ています。日本語文章の常識をくつがえす印刷物に、製本以降の加工は戸惑いますね。もっとも、これはデザインだ!となれば話は別ですが、**知らなかったという事も多いのが現状です**。とりわけ上製本のように表紙と中身が、まったく別ラインで作られる場合には、しっかりと指示をしてもらわないと、**表紙は右開きで本文は左開きと言うような事故が起こります**。まだ出版業界では少ない事故ですが、**軽印刷界では、たびたび発生し製本会社では頭の痛い問題の一つです**。(そんなことから確認を始めなくてはいけないからです)

文字とは、その国の文化です。私達印刷人は、ぜひとも国語の常識程度は、身に着けていたいものです。またエンドユーザーに対しても、企画の段階からしっかりとアドバイスをすることは、プロとしての役割ではないでしょうか。「前回がそうになっているから」と言うだけで、可笑しい製品をまた作って良いのかどうか、ユーザーとも話をすべきでは、ないでしょうか。

49号でも書きましたが**またあなたのお客さんになりたい**と言われるように、来年はぜひ頑張ってみようではありませんか!



Tea break

今年一年 皆さんお疲れ様でした。もう一頑張りの方もいるでしょうがひとまず締めのご挨拶♪一年間のご愛顧有難うございました。任せて安心と言って頂けるように、来年も更なる社内のレベルアップを進めて参りますのでよろしく願い申し上げます。

by (株) 井関製本